

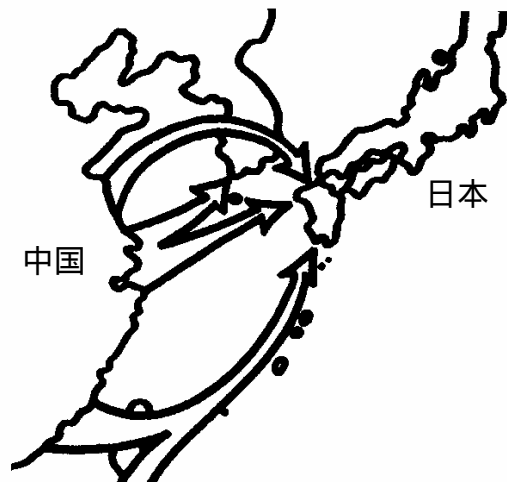
米づくりは、どうやって伝わってきたの



中国東岸を中心とする東シナ海沿岸^{えんがん}の先住民が、九州に伝えたのが最初、と考えられているんだよ。

中国から3ルートを通して伝わった

水田を使った米づくりの起源^{きげん}は、インドのアッサム地方から、ミャンマー北部、中国の雲南省^{ユンナンしょう}、ラオス北部にまたがる高地地方とみられています。日本には、中国から伝わりましたが、そのルートは三つありました。長江^{ちょうこう}・ホワイ川^{りゅういぎ}流域^{りゅういき}から、朝鮮半島南部^{ちょうせんはんとう}を通して、九州北部に伝わるルート、長江下流部から、朝鮮半島南部と九州北部に直接伝わるルート、江南^{こうなん}（長江より南の地方）から、琉球^{りゅうきゅう}諸島^{しよとう}・薩南諸島^{さつなんしよとう}を通して、九州南部に伝わるルートの3ルートです。



最初に伝えたのは、東シナ海沿岸の先住民らしい

紀元前5世紀より前の古い時代、長江の河口部を中心とする東シナ海沿岸では、「呉^こ・越^{えつ}の民^{たみ}」とよばれる先住民が、あちこちに集団をつくって住んでいました。彼らは、水田を使った米づくりを行うとともに、舟^{ふね}をあやつって魚をとったり、潜水^{せんすい}して貝をとったりしてくらす、半農半漁民でした。かみは短く、顔や体に「いれずみ」をしていました。彼らの住んでいた所は、朝鮮半島南部、済州島^{チェジュとう}、九州西部・北部、瀬戸内地方にまで分布し、移動をくり返していたようです。水田を使った米づくりの技術を、最初に九州にもちこんだのは、このような、東シナ海沿岸の先住民の一部だった、と考えられています。